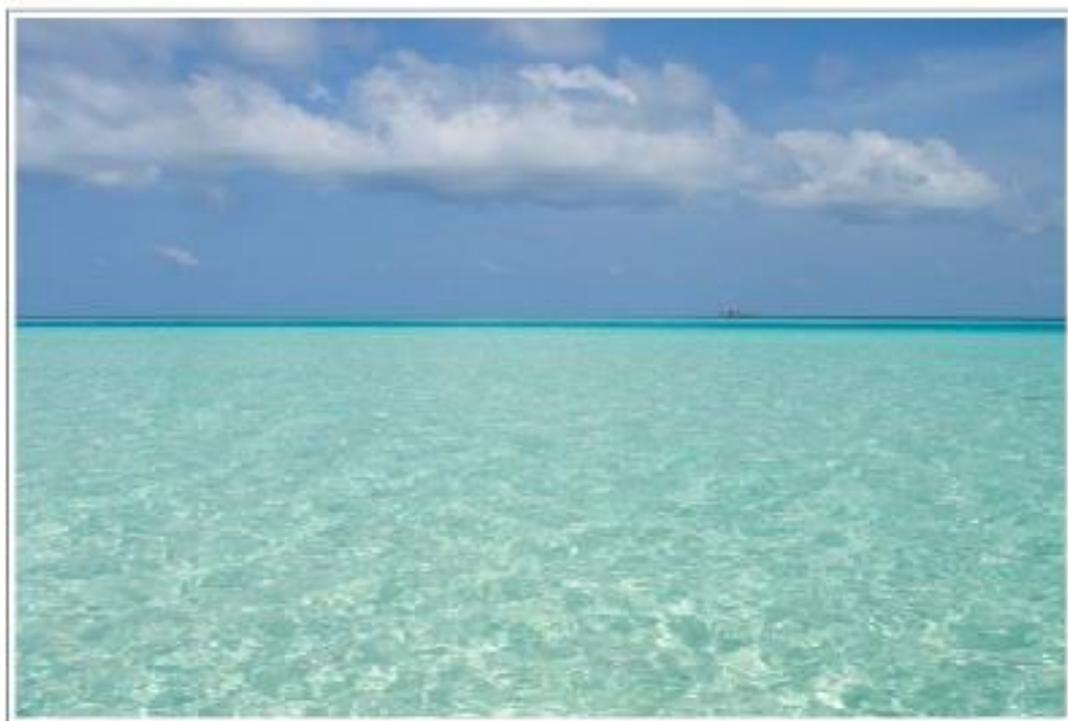


緩和ケアについて かんわパンフレット5

早期からの
緩和ケア編



緩和ケアは、病気がよくなる、
生活がうまく行くように、
全力で治療をします。



パンフレットの内容や、病気の症状、療養上のお悩み事については、
下記にお問い合わせください

社会医療法人神鋼記念会
神鋼記念病院 TEL 078-261-6711

・治療・生活サポートチーム
・がん相談支援センター（薬局2階）

緩和ケアについて

長生きするための一番いい治療

緩和ケアのイメージ

緩和ケアは治療をあきらめて…といったイメージを持たれている方も多いのではないのでしょうか。でも、実際は異なります。

痛みをとるだけで、何もしてもらえない

治療がなくなってから

さいごを待つだけ



1) 命が短くなっても？

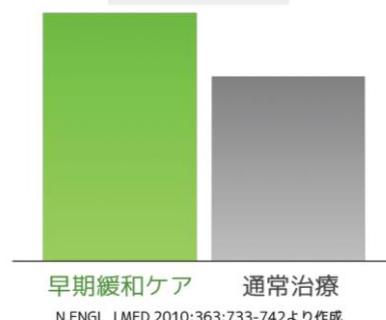
「命が長くなるとしても抗がん剤を続けるのはつらい。それなら、命は短くてもいいから”いたみ”がない方が…」こんな考えは十数年前までは定説でした。最新の研究結果は、驚くことに「**緩和ケアを最初から受けた方が長生きする**」というものでした。



2) 早期からの併用で 長生き

この研究は、進行した肺癌と**診断された時**から、緩和ケアチームが主治医と共に治療をしたグループと、通常の治療をしたグループを比較しました。すると、早期から緩和ケアを併用したグループが、同じようながん治療を受けながら平均で数ヶ月も長生きできたとの結果でした。これは世界で一番有名な医学雑誌で発表され、米国臨床腫瘍学会は「**緩和ケアを早期から併用すべき**」と勧告しました。

治療効果の比較



3) 一番いい治療を

もちろん、抗がん剤治療を続けることは、なにより大事と思われるでしょう。しかし、この研究でより長生きしたグループは、体調が悪いときに無理をして抗がん剤を続けなかったのです。このような時には、治療のためと思った抗がん剤で逆に命を縮めることがあるのです。緩和ケアを併用して体力や体調を維持し、がん治療を続けること、体調が思わしくないような時は、体調を維持する治療を主体に行うこと。これらが病気と闘うために**一番よい治療**となるのです。



4) 緩和ケアで行う治療

緩和ケアで行われる治療は、いたみの治療ではありません。このように、**いたみの治療・息苦しさの治療・腹水・胸水を抜く・栄養の点滴をする・必要に応じて輸血をする・不眠の治療・気持ちのサポート・生活・家族・療養上の相談** 抗生剤の治療・だるさの治療・主治医、放射線治療、麻酔科などの専門家と連携など。また緩和ケアは”ホスピス”だけで行うもの”ではありません。抗がん治療中、入院、外来、自宅療養、緩和ケア病棟。いつでもどこでも緩和ケアが受けられるのです。さらにはがん以外の病気でも、緩和ケアを受けられるようになっています。神鋼記念病院でも入院中だけでなく、当院外来で治療中に緩和ケアが受けられるよう、緩和治療科外来が開設されています。